



# がんばれ! 子育て日記



## ゆうとうせい がんば 優等生の頑張り

世の中の注目を浴びるような“大事件”が起こると、犯人について「子どもの頃は優秀だった」という話を聞いたりしませんか？ こういった話を聞くと、少し不安になってしまうお父さん・お母さんもいらっしゃるのでは…？



たいていの子どもは、本能的に親の前では“いい子”であろうとします。

この“本能的に”というのは、「親から見捨てられたら大変」「愛されたい」「認めてもらいたい」という気持ちが心の底にあるからだそうです。

そして、その気持ちがあまりにも強くなりすぎると、本当はやりたくないのに、自分のキャパシティー以上の頑張りをし続けてしまう子もいるそうです。

また、親が子どもの走るレールを勝手に敷いて、「あれをやれ、これをやれ」「もっと頑張りなさい！」などと押しつけてしまい、子どもは必死にそれに応えているという場合もあるようです。



そして、それが“ストレス”となって蓄積ちくせきされてしまうと「小さい頃はいい子だったのに…この子がまさか…」と言われるような問題につながることもあるようです。



ただし、“やらされている優等生”と、“自ら進んでやってきた（好きでやってきた）優等生”とはまるで違います。

自ら進んでやっているように見えても、実は“いい子を演じる”のに疲れてしまうケースもあるようです。

ですから、ストレスがたまっているかどうかは、日頃の表情や会話からもある程度読み取れるはずなので、お子さんのことをよく観察することが大切でしょう。

もし、「何か疲れているようだな…？」「悩んでいるのかな…？」と感じたときはもちろん、何でもないときでも、「ちゃんとあなたのことを気にかけているよ」という姿勢を見せてあげることが大切でしょう。



もちろん、これも過度かどになり過ぎると逆効果になりかねませんので、バランスも大切です。

これからも温かい目でお子さんを見守ってあげて下さいね。